

黎明



VOL.48

令和7年11月30日発行
東洋大学校友会
富山県支部だより



東洋大学校友会富山県支部総会 令和7年6月22日 パレブラン高志会館

ごあいさつ



富山県支部長
森川 芳一
(昭和63年法律)

日頃より富山県支部校友の皆さまには、活動への参加、運営への協力を厚く御礼申し上げます。今年も支部会報「黎明」第48号をお届けできますこと大変嬉しく思います。寄稿いただいた皆さん編集に携わった広報委員会の皆さん有難うございました。

6月の支部総会にて、前期に引き続き富山県支部長をお受けすることになりました。改めて大変荷が重いのですが、自身の母校を想う気持ちは何物にも代え難く、支部校友の皆さんからのお力添えをいただきながら職務を務めてゆく所存です。

さて一般社団法人東洋大学校友会は、神田雄一会長が先頭に立ち、「新しい時代の魅力ある校友ソサエティの実現」に向けて改革に取り組んでおられます。校友会は大学と結んだ連携協力の包括協定にもとづく活動を通し役割を果たし、失われてきた信頼関係も少しずつ回復しております。

支部においても、皆さんと皆さんがどこかで繋がりがあえることが母校への最大の貢献と信じ、今後も活動運営を行ってまいります。

前年に続き富山県支部は、支部支援会費のお願いをいたしましたところ、多数の皆さまからご厚意を頂きました。本来であれば、書面にて御礼を申し上げるところではありますが、今般も「黎明」へのご芳名の掲載にて御礼と代えさせていただきます。引き続き「黎明」発刊など自主活動の維持と、再来年の支部90周年企画に活用させていただきます。純粋に母校を想う心の集まりが富山県支部です。まだ見ぬ仲間との出会いを切に望んでいます。

令和7年度総会 校友36人が結束誓う

令和7年度総会は6月22日(日)、富山市のパレブラン高志会館で開かれ、校友36人が出席しました。森川芳一支部長が開会のあいさつを行い、議事では事業報告、収支報告、監査報告、組織体制、事業計画、予算の各議案が承認されました。続いて小矢部市の五郎丸屋代表取締役で県菓子工業組合理事長の渡邊克明さん(平成7年情報工)が「変わらないために変わり続ける」と題して講演しました。その後、ゲストの増田和浩石川県支部長と浦水会富山県支部の笹島永吉次期支部長を交えて懇親会を行いました。懇談の途中には出席者全員が近況を報告し、昭和37年卒から令和7年卒まで、幅広い世代の出席者が母校への思いを新たにし、結束を誓いました。



講演する渡邊克明さん

演題 「変わらないために変わり続ける」 講師 渡邊克明氏(平成7年情報工)

○：私で16代目となる五郎丸屋は江戸時代中期から270年以上続く、富山県内では最も古い和菓子店です。参勤交代の際は看板の銘菓「薄氷(うすごおり)」を幕府に献上していました。東洋大学では工学部情報工学科でプログラムを学んでいましたが、当時テレビで放送されていた「料理の鉄人」で、職人が食材を意のままに操る姿にひかれ、和菓子屋を継ぐきっかけとなりました。卒業後は東京の和菓子店で3年間修業し、基礎を学びました。

○：和菓子業界で「生涯一品」という言葉があります。生涯を通して何か一品でも次の世代に残していくという意味です。薄氷は宝暦2(1752)年に5代目の手によって誕生しました。田んぼの水面にうつすらと張った氷を踏み割った形から着想を得て干菓子にしたのが始まりとされています。同業者にも製法が真似できない、門外不出の技術で作られています。

○：和菓子は以下の3種類に分類されます。「生菓子」(水分量30%以上で日持ち2〜3日)、「半生菓子」(水分量が少なく日持ち1〜2週間)、「干菓子」(水分量が極端に少なく日持ち1カ月以上)。和菓子の売り上げの9割は生菓子と言われていて、薄氷などの干菓子は数%とマニアックです。私が修行から帰ってきた頃は薄氷もなかなか売れませんでした。現代でも通用する商品をと、20代後半から「季節の薄氷」を作りました。桜の花びら、蛍、イチヨウ、雪うさぎ、ラムネなど、色や形を変えることによって年間を通して売れる商品に育てました。

○：より多くの人に喜んでもらえる商品にと薄氷をベースに考えたのが「T五」です。2013年に観光庁主催の「世界にも通用する究極

のお土産」に選定されました。季節をイメージした5種類の色合いと味わいを楽しめます。商品名は「TONE」「TASTE」など5つのTが由来としていますが、本当は開発していた時期によく聴いていたジャズの名曲「Take Five」からとりました。5拍子で作られ、当時は「変わった曲」と言われましたが、結果的に名曲となりました。T五もそんなふうに認められるお菓子になればと思います。

○：皆さんにお配りしたのが2022年から作っている「きせつのさがしもの」です。東京のガラス作家・山本真衣さんの江戸切子作品から着想を得ました。九つの色味に9種類のカクテルが入っている生琥珀糖です。球体でつなぎ目なく全面に繊細な柄が入っています。既存の和菓子の道具では作れず、製法は企業秘密です。1年前に雑誌「婦人画報」の表紙に使われたのがきっかけで、フランスの老舗ジュエリーブランド「CHAUDET(ショーム)」とコラボレーションした限定商品の開発につながりました。



思わぬプレゼントに
参加者は大喜び

○：娘が2人いますが、長女が今春、製菓学校に進みました。きっかけは「きせつのさがしもの」だったようで、私がSNSにアップする商品の画像を娘の友人が見ているうちに私の仕事に興味を持ってくれたようです。次の世代には私が手を出さなかった生菓子などのジャンルにも、先祖が受け継いできたものを生かしながら挑んでもらえたらと思います。

○：私が考える理想の和菓子は「シンプルであること」です。見た目、素材、製法の全てにおいてシンプルなもの、が究極だと思います。素材は2〜3種類で十分美味しいものが作れますし、次世代が受け継ぎやすくなります。配合も「10対1」「3対2対1」など数字的に美しい比率にこだわっています。

○：東洋大学出身の作家・坂口安吾はエッセイ「日本文化私観」で小菅刑務所とドライアイスの工場と軍艦の3つを「美しいもの」として挙げて、その理由を「美しくするために加工した美しさ、一切ない。ただ必要なもののみが、必要な場所に置かれた。それは、それ自身に似る外には、他の何物にも似ていない形である」と書いています。私もいずれはそのような和菓子を作りたいと思います。



「打ち勝つ野球」で歴史刻む 未来富山率いた角さん

第107回全国高校野球選手権富山大会を制した未来富山高校。創部8年目で初の甲子園出場を果たしました。通信制高校の甲子園出場は県内初で、新たな歴史を刻みました。野球部員23人中22人が県外出身という異色のチームを率いたのが東洋大学校友の角鴻太郎さん（平成26年経営）です。甲子園の激闘から約1ヵ月半後、富山市で校友有志が慰労会を開きました。

―未来富山の監督になった経緯を教えてください。

父がヤクルトのフロントを退団した後、東京国際大の監督を経て、社会人野球の「IMF バンディッツ富山」の部長を務めていて「未来富山が指導者を探している」と声を掛けられたのがきっかけです。

―地方の通信制高校での指導。迷いはありませんでしたか。

指導者の経験は神奈川県の中学生硬式野球チームでコーチを務めただけでしたが、父からの話でもあり、野球に恩返ししたい気持ちもあったので、迷わず引き受けました。妻と子ども3人を神奈川に残して単身赴任で富山にきました。



監督を退任しリラックスした表情の角さん

―就任当時の未来富山の選手たちの印象は。

鍛えれば面白いなという子はいました。理由があつて来ている生徒もいて、精神的に弱い子が多く私生活から指導しました。その上で、全員に同じ教え方をしても駄目だと感じ、一人一人とじっくり話をしました。選手たちと向き合える時間が多かったのは、通信制のメリットだったかもしれません。

―2024年夏の富山大会はベスト4。頂点が見てきた手ごたえは。

当時は4強が精一杯だなと感じました。しかし試合に出ていた1年生4人、2年生2人がしっかり引つ張つていけば、今年は4強以上を目指せると思いました。エース左腕の江藤蓮（3年・U-18日本代表候補）もいましたが、春は3回戦で高岡商業に0対7で完敗しました。その後子どもたちが「このままだと夏は勝てない」と危機感を持つてくれ、練習量も増えました。

―結果的にノースードから夏の富山大会を制しました。歴史に残る偉業です。

子どもたちが「甲子園に行きたい」と頑張ってくれたのが勝因です。江藤は精神面に波がありましたが、最上級生になって投打でチームを引っ張ってくれました。

―チーム打率が4割2分6厘。6試合の総得点が63と打力で圧倒しました。

夏は打たないと勝てません。自分も日大三高時代は打ち勝つ野球をやってきたので、それを富山で表現したいと思いました。監督2年目で甲子園に行かせてくれた彼らには感謝しています。

―全校生徒24人ということもあり、甲子園に向けて費用や応援の準備が大変でしたな。

寄付金やクラウドファンディングで協力いただきました。応援は地元・魚津市の有志の皆さんにバスを10台出していただき、新川、魚津工業、魚津の3高校で混成の吹奏楽団まで結成してもらえました。甲子園でスタンドにあいさつしたとき、人が多くて感動しましたし、試合が始まって吹奏楽の演奏を聞いて「本当に甲子園に来たんだ」と実感しました。

―結果は初戦の高川学園（山口）に5対8で敗れましたが、初回に2点本塁打で先制し、逆転されても追いつく粘りを見せました。

富山のチームらしくない戦いだったと結構言われました。選手たちには「悔しいよね。でも勝てなかったのは全部監督の責任。胸を張って富山に帰ろう」と話しました。勝っていれば日大三高と対戦できたのですが、仕方ありません。

―9月になって監督を退任という報道があり驚きました。

部員の問題で3月に日本高野連から1ヵ月間の対外試合禁止処分を受けました。その際、未来富山を運営している勤務先の会社に「責任を取りたい」と申し出て、指揮を執るのは夏までと決めました。10月末までは3年生の進路などをサポートして、その後富山を離れます。

―富山の生活はどうでしたか。

初めて来ました。食が、食べ物がいしかったです。3年半で体重も増えました（笑）。氷見漁港の食堂で食べた寒ブリの丼は忘れられませんが、雪は「こんなに積もるんだ」と思いました。父の縁で富山のヤクルトファンの皆さんにも応援してもらいました。

―富山の校友にメッセージを。

甲子園での応援、ありがとうございました。富山を離れますが、今後も東洋大出身であることを胸に頑張っていきたいと思っています。

―今後、神奈川ではどんな生活を。

10歳の長男の野球を見るのが楽しみです。神宮球場にも行って、乾先輩がコーチを務める母校を応援したいですね。

【プロフィール】

角鴻太郎（すみこうたろう）…

1991（平成3）年4月19日生まれ。

東京都出身。日大三高3年時に夏の甲子園に外野手として出場。東洋大OBで高校時代のコーチだった三木有造監督に勧められ進学。卒業後は一般企業勤務を経て2022年春から未来富山高校野球部コーチ、23年秋に監督就任。25年夏で退任。父はヤクルトで内野手として活躍した角富士夫さん。家族は妻と2男1女。日本ハムと巨人に在籍し、富山GRNサンダーバースでもプレーした乾真大さんは3学年上の先輩。



聖地・一番島に早崎店主を含め校友7人が集結

1年でB1復帰！富山グラウジーズを 陰で支える田中勇颯さん（令和6年経済）

昨シーズンからプロバスケットボールチームの富山グラウジーズでアシスタントマネージャーを務める田中勇颯（たなかゆうき）さん（令和6年経済）。B2降格から1年でB1に復帰したチームを陰で支える一員です。来年にはBプレミアに参入が決まっている富山グラウジーズ。シーズン開幕直前の忙しい中、田中さんに学生時代のこと、今の仕事、これからの夢を聞きました。



田中勇颯（たなかゆうき）
群馬県出身 2001年5月31日生まれ
〈経歴〉
2022～2024
東洋大学男子バスケットボール部 学生コーチ
2024～
富山グラウジーズ アシスタントマネージャー

—大学時代はどのような学生生活を送られましたか

ちょうどコロナ禍だったので、入学当初は部活動がなくオンライン授業のみという、思い描いていた大学生活ではありませんでした。徐々に、対面授業が再開したり、寮生活になったりと大学生らしい生活になり、今振り返ってみると「特別な4年間」だったと思います。

—大学時代の思い出の場所がありますか

学食ですね。1日に2、3回食べることもありました（笑）。あと板橋の寮の近くのリッキーズというラーメン屋さんですね。何かあるたびにそこに行ってマスターと話をし

ていました。

—昨シーズンお忙しい中、一番鳥の会にご参加いただきました。富山県の校友の存在についてどう感じですか

もっと諸先輩方に、これまでの経験とかいろいろなことをお聞きしたいですし、僕はこのようなつながりを大事にしていきたいと思うので、今後も交流を深めていければと思います。

—富山に来て2シーズン目、富山県の印象は僕、群馬県出身なので、そんな変わらないんですよね（笑）。街並みも過ごしやすさも。群馬には海と路面電車がなくてすけど。立山連峰は素晴らしい景色ですね。富山は実はずっと山が苦手だったんですが、富山に来て食べられるようになりました。

—現在の仕事である富山グラウジーズについて聞きます。B1に復帰してチームや生活面で何か変化したことはありますか

正直、チームの中で選手もスタッフもB1を経験している人が多くはありません。ヘッドコーチからは「B1で戦う自覚をもつ」ということを日々ずっと言われています。選手の

練習への取り組み方は変わったと思いますし、僕らスタッフもB1で戦うために何が必要かというのを日々模索しながらこの1、2カ月は過ごしてきました。2年前の「4勝56敗」を二度と繰り返さないというのは、ヘッドコーチもずっと言っていて、そのシーズンを経験した当時の選手・スタッフ・ブラスターのために、本当に今年は勝ちたいです。

—昨シーズンで一番印象に残っている試合はB1復帰が決まったプレーオフの福岡戦です。絶対に負けたくない、勝ちたい、上に上がりたいという思いでチームがひとつになつていました。1年間の全ての想いがぶつかった試合といえますか。それを間近で選手を支えながら見られたというのは、僕にとっても素晴らしい経験になったし、今後もし忘れてはいけない試合だと思っています。

—今後アシスタントマネージャーとしてどのように選手をサポートしていきますか

目配り気配りをしながら、選手が困る前に助けられることができるように心がけています。正直、キャリアがない僕が富山に来たのは縁のおかげですし、その感謝の気持ちを会社にも、選手にも、仕事のひとつとして表現していきたいと思っています。

—富山グラウジーズを一言で言うとなんかチームですか

赤いチームだなと思います（笑）。情熱的で愛情もあつて、すごくハートがしっかりしている人が本当に多いなと思います。バスケットに対する姿勢だけでなく、日常の人としての在り方も熱くて温かい。きれいなハートをもっている人が多いと思います。

—チームで一番仲の良い選手はどなたですか
*同じ田中の人です（笑）。実は、もともとつながりがあつて、高校時代、関東大会の準々決勝で戦ってそこで負けて、大学に進学したら同じカテゴリーにいました。僕は大学の途中からコーチになったんですけど、そこから彼のことを分析していて、ある試合のゲームプランで彼にスリーポイントシュートを打たせてもいいと判断したところ、見事に全部決められて大事な一戦を落としたこともありました。

—今後どのようなキャリアを描いていきたいですか

コーチとして日本一を取りたいです。今はまだそのカテゴリーが僕の中でも定まっていらないのですが、ずっと日本一になりたいという夢だけはあったので、そこだけはかなえたいと思います。そのためには、僕はキャリアがあるわけではないので、一歩ずつ着実に、自分のコーチ像を確立したうえで、その夢を成し遂げられるようにしていきたいです。

—最後に校友に向けてメッセージをお願いします
今、僕が富山にいるのは、いろんな方のおかげだと思っています。大学時代にお世話になった先生たちのためにも、富山で恩返しできるように頑張ります。人とのつながりは本当に大事だ



©TOYAMAGROUSES

と思いますので、僕にできることであれば協力させていたきたいと思っています。

鉄紺アスリート通信

富山ゆかりの鉄紺アスリートの近況を紹介します。皆さんからの情報提供も随時お待ちしております。

2部の力示したい

りゆう

陸上中長距離の荒井琉さん

(総合情報学科3年・射水市出身)



富山カップの競技後、
笑顔を見せる荒井さん



toyo2tf_official

総合情報学科で学び、2部陸上競技部に所属しています。富山商で本格的に陸上を始め、3000mや5000mに挑んでいます。1部の選手たちと一緒に練習する時には、酒井俊幸監督から指導を受けることもあります。帰省の時期と重なったため8月10日の富山カップ(県総合運動公園陸上競技場)5000mに出場しました。強い雨の影響もあり出走18人中7位。タイムも自己記録に遠く及びませんでした。だけど家族に走っている姿を見せられて良かったです。2部でも実力があればインカレや箱根駅伝に出ることも不可能ではありません。2部の力を示したいと練習に励んでいます。富山県出身では(過去に黎明で紹介された)片原一輝君は川越でよく顔を合わせますし、山本嶺心君は同じ学科なので授業で一緒にいることもあります。彼らの活躍には刺激を受けてきました。就職活動は始めていますが、Uターンするかどうかは決めていません。校友の皆さんとはあまり接点がありませんが、東洋大を盛り上げられるように頑張ります。(追記)荒井さんは11月2日の富山マラソン2025で20位と健闘しました。タイムは2時間31秒09で自己記録を更新しました。

鉄紺アスリート通信 番外編

富山マラソン中継の解説務める YKKの末上哲平さん

(平成19年経済)

2024年の富山マラソンが終わってしばらくしたころでした。県内のケーブルテレビとYouTubeで中継される番組の解説を9回務めた、職場の先輩の泉亘さんから「次はよろしく」と冗談交じりに言われました。半信半疑でしたが、後日、北日本新聞社の清見さん(平成4年応社)から正式に依頼の連絡があり、驚きました。

そこから本番に向けて、富山マラソンのペースランナーを務めた友人に話を聞いたり、有ランナーの練習を見学したりして「自分にしかできない解説」をする準備を進めました。大会当日の朝はあえて黒部から電車に乗り、高岡のスタート地点に向かうランナーたちの熱気を肌で感じてからスタジオ入りしました。

番組が始まると最初は少し緊張しましたが、司会者の上手なリードもあって準備していた情報や伝えたかったコメントを自然に織り交ぜることができ、気付けば本当に楽しい時間でした。ランナーの笑顔や前向きなコメントに触れる中で、競技者時代を思い出して「多くの人に支えられて大会は成り立っている」と改めて感じました。7時間45分という箱根駅伝中継よりも長い放送時間でしたが、終わってみればあつという間。翌日には「解説聞いたよ」とたくさん声を掛けられました。大学時代に陸上に打ち込み、箱根駅伝を経験したことが、こうして新しい形につながったと思うと、人生の縁の面白さを感じます。

このような機会をくださった関係者の皆さんに心から感謝し、全てのランナーに「お疲れさま、そしてありがとう！」の気持ちを伝えたいです。

ちなみに頂いた謝礼は、食べ盛りの4人の子どもたちに即座に発見され、当日の夜には焼肉店で見事「完走」し、きれいに姿を消しました(笑)。



競技経験を生かして解説する末上さん
「富山マラソン2025 完全生中継」は
YouTubeで現在も視聴できます

校友だより

「相撲甚句に出会って」

古澤弘宣(昭和44年経済)

私が社会に出た頃は、まだ世の中はゆっくり動いていました。その頃は新年会、忘年会、ちょっとした会合、接待も含めて料亭旅館のお座敷がほとんどでした。

中には芸達者の方達が舞台に出て、芸者さんの三味線に合わせて小唄、端歌、都都逸、新内など踊ったり、唄ったりして完全な男社会でした。(女性の方ごめんなさい)

何も出来ない私は当時の上司に怒られ悔しい思いもしましたが、なんとなく風情を感じました。

四十歳頃に相撲甚句の名人と呼ばれた富山市岩瀬出身の呼出し三郎師匠に出会いました。

師匠は大鵬、柏戸、輪島、北の湖、千代の富士時代に活躍された呼出しさんでしたが定年退職後、相撲甚句の普及に全国行脚され、富山に来られた時に甚句の独特の情のある節回しに魅了され、勝手に弟子入りさせていただきました。

それからは結婚式、送別会の宴会などで唄い、重宝させてもらいました。

あまり唄う人がいないので下手でもそれなりに喜んでいただけたいと思っています。

これからは、体は痛いところだらけでいつまで出来るか分かりませんが、好きなゴルフをして静かに余生を送りたいと思っています。



新年のつどいに参加し相撲甚句でエール後、
高島さんとがっちり握手する古澤さん

新年のひびこ

1月12日(日)

1月12日(日)、富山市新富町の「我家的厨房Big5」に校友27名が集い、新年のお祝いをしました。

昨年は能登半島地震の影響で開催を見合わせたことから、二年ぶりの新年のつどいとなりました。

今回は若い会員の参加も多く、新年のおめでたい雰囲気の中、おいしいお料理とお酒をいただきながらあちらこちらから賑やかな歓談が聞こえてきました。途中にはゲストとしてお招きした、今春入学予定の高岡向陵高校3年で相撲部の高島一人さんが紹介され、東洋大での活躍を期待して記念品を贈りました。

そしてもうひとつのプレゼントとして、古澤弘宣さん(昭和44年経済)が「相撲甚句」を披露しました。会場内に響きわたる素敵な唄声で高島さんにエールを送りました。

最後に校歌・応援歌を斉唱し解散となりました。校友のみなさま、本年もよろしく願っています。



校友から体験談や助言 南水会富山県支部就職セミナー

3月2日(日)

東洋大学に通う学生の父母で組織する南水会富山県支部の就職セミナーが3月2日(日)、富山市高田の県総合情報センターで開催されました。セミナーでは校友で北陸電力営業本部室C Nビジネス開発チームの嶋田翔太さん(令和6年情報連携)が自身の就職活動体験を紹介しました。また、アイザック人事総務企画部長兼秘書室長の大菅康夫さん(平成13年商Ⅱ6月に取締役)が人事担当者の立場から、現在の就活の状況や採用活動などについて説明しました。

嶋田翔太さん



「入社1年目です。学生時代は赤羽キャンパスで過ごし、バドミントンサークルの副代表を務め、アルバイトに精を出していました。就活に備えて3年終了時点では卒論と2単位を残すのみにしました。3年の夏からマインナビに登録してインターンシップ(IS)に参加し始めました。冬にはエントリーシート(ES)を提出し始めました。周囲の友人は50社ほど応募していましたが、自分は5社に絞りました。ESの作成にはChatGPTを活用し、自己PRを書いた後に何度も添削を求めました。ISは約20社に参加しましたが、最終的な会社選びについてはISで会った社員の印象を重視しました。面接では明るさと素直さをアピールし『一緒に働きたいな』と思ってもらえることを意識しました。また、志望動機の質問に対応するためには企業研究が大切ですが、ISへの参加は非常に有効でした。東京と富山での就活の両立は、1次面接がウエブで行われることが多いため可能だと思います」

大菅康夫さん



「学生側の『売り手市場』が10年以上続いています。内定の時期も早まり、2026年卒(現在の大学3年生)は2月1日時点で約40%が内定を得ている状況です。表向きは3月から広報活動開始、6月から内定出しとされていますが、実際には大学3年生の春や夏からIS名目で採用活動が始まっています。就活の目指すべきゴールは、自分にとって納得のいくキャリアの第一歩を踏み出すことです。最初から企業を絞るのは尚早です。ISには多く参加しましょう。人事担当者はESをあまり深く見ていません。時間をかけるより、多くの企業に出してください。面接で企業は『自社で活躍できる人材か』『自社の文化や価値観に合うか』『一緒に働きたいと思える人材か』を見ています。深掘りされた質問には嘘をつかず、正直に答える方がいいと思います。父母の皆さんは、お子さんが納得できる選択肢を広げるサポートをしてください。ポイントは①親自身の経験や社会のリアルを共有すること②正解はないことを伝えること③本人の意思を尊重し、決めつけないことです。社会人やキャリアの第一歩を踏み出すときには、本人が納得して決めた道だからこそ踏み張れるものです。ぜひお子さんの意思を尊重してください」



父母や学生ら約20人が参加した

呉西会

7月26日(土)

県西部にゆかりのある校友でつくる呉西会は7月26日(土)、高岡市の高岡マゼンホテル駅前内「Casual Dining Bon」で懇親会を開催し、昭和36年卒から平成25年卒の校友23名が集いました。

はじめて参加の方、久しぶりの方、皆が各テーブルに分かれ世代を超えて活発な交流が行われました。近況報告では、「観想の華」にまつわるエピソードの紹介や、お気に入りの一曲の披露など、本当に話題に事欠くことなくあつという間に時間が過ぎていきました。とりわけ今いちばんホットな「卒業証書の有り無し話」では大盛り上がりしたことは言うまでもありません。

最後は母校の発展、学生たちの活躍を祈念しながら、校歌・応援歌・観想の華を斉唱し、解散となりました。

参加された皆さまお疲れさまでした。残念ながら今回欠席の皆さま、次回また皆で元氣にお会いしましょう。



全員で校歌を斉唱



各テーブルで和やかに歓談

レディース会

11月1日(土)

11月1日(土)、今年のレディース会が小矢部市で開催されました。

朝までの雨でお天気も心配されるなか石動駅に集合し、昼食会場までの道のお寺散策やメルヘン建築を見学しながら歩きました。幸い晴れ女さんのおかげで雨の心配もなく、おしゃべりしながらゆつくり「いするぎまち歩き」を楽しみました。

昼食では、このあと訪問する五郎丸屋社長 渡邊克明さん(平成7年情報工)も加わり美味しいお料理をいただきながら、お菓子の話を伺ったり、互いの学生時代の話をしたりと楽しい女子会ランチとなりました。

その後五郎丸屋さんに場所を移し、受賞された数々のお菓子の説明を聞いたたり、お買い物を楽しみました(講演会でもいただいた、入手困難な「きせつ」のさがしもの)も買えました。帰りの際には「T5」のお土産までいただき、渡邊社長の粋なお計らいに、帰り車中は見た目も心もイケメンの話題でもちきりでした。渡辺社長、奥様、大変お世話になりました。

お店を後にしたところで雨足が強くなってしまい、この後の予定を切り上げることにしました。予定変更となってしまいましたが、古き良き街並みを見て、美味しいお料理をいただき、素敵なお菓子の数々を見て、買って、今年もいいレディース会になりました。

東洋大学校友会HP
富山県支部ブログ



【レディース会お問い合わせ】

東洋大学富山県支部
縄井 恵美(平成2年短英文)
☎090-1396-3762

新川会

11月15日(土)

新川地区在住の校友でつくる新川会は11月15日(土)、校友の美浪利通さん、加志子さん(ともに昭和52経営)ご夫妻が経営する、魚津市釈迦堂の「日本料理 海風亭」にて開催しました。

美浪さんの美味しいお料理を堪能しながら、同窓というご縁で集まった先輩・後輩が交流を深めました。今回は「はじめまして」の方こそいらつしやなかったものの、「お久しぶりです」の方が2名いらして、懐かしい話や互いの近況報告など、楽しい時間を共有しました。

とりわけ今回は女性校友の参加も多く、華やかでそして賑やかな会となりました。

校友会行事への参加を考えている方がいらしたら、新川会にご参加されてみてはいかがでしょうか? はじめてとは思えないくらい、どこか「ほっと」する集まりです。

みなさま方にお会いできる日を楽しみにしています。



参加総勢11名



美浪女将も一緒に「レディース会魚津支部」

第29回富山県東都大学OB交歓ゴルフ大会

団体戦は昨年に続き4位

第29回富山県東都大学OB交歓ゴルフ大会は10月11日(土)富山カントリークラブで開催されました。東洋大学は団体戦で昨年に続き4位の成績でした。専修大学が2年ぶり11回目の優勝を飾りました。東都大学野球リーグに所属する7大学の卒業生91人が参加し、東洋大からは11人が参加しました。個人戦では、神通ー薬師コースで小畠裕一さん(平成3商)が2位となり、有磯ー神通コースで渡辺國臣さん(昭和42土木工)が9位に入りました。

夜は一番鳥に場所を移し、お疲れ様会をしました。夜から参加の校友も加わって、大変賑やかに参加メンバーをねぎらいました。



参加メンバーのみなさん



一番鳥にてお疲れ様会

令和7年 支部支援会費 納入者芳名

自主財源確保に向けた支部支援会費を納入いただいた方々です。

高木 保二(昭和36年経済)	笹谷 伸雄(昭和37年経済)	堀田 良一(昭和37年経済)	金田 安夫(昭和43年法律)
杉田 欣次(昭和44年法律)	水上 義行(昭和44年教育)	古澤 弘宣(昭和44年経済)	青島 清司(昭和45年機械工)
湊 信雄(昭和45年法律)	明石 大洋(昭和46年経営)	山尾 友一(昭和49年法律)	小島 伸也(昭和52年応用社会)
前多 悟(昭和52年経営)	城口 良成(昭和54年経営)	高畑 務(昭和55年法律)	本田 均(昭和55年商)
杉田 俊雄(昭和58年法律)	柴田 哲人(昭和58年経済)	稲場 卓郎(昭和59年経済)	伊藤 政博(昭和59年経済)
早崎 浩行(昭和60年商)	丸田 勝文(昭和61年土木工)	森川 芳一(昭和63年法律)	縄井 恵美(平成2年短英文)
清見 昇(平成4年応用社会)	南日 邦男(平成9年経済)	小竹 裕貴(平成21年経済)	

(卒業年順、敬称略)

令和8年の支部支援会費の納入もお願いしております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「新年のつどい」ご案内

恒例の「新年のつどい」を行います。皆様、ふるってご参加ください。懐かしい思い出と共に旧交を温め合いましょう。

- 日 時：令和8年1月11日(日) 12:00～
- ところ：我家的厨房Big5(富山市新富町1-4-1 51ビル)
- 参加費：男性6,000円 女性4,000円

※令和7年3月卒の校友は無料



お問い合わせは事務局まで



事務局では「黎明」に掲載する原稿や情報を募集しています。事務局までお気軽にお寄せ下さい。お待ちしております。

事務局	森川 芳一	〒930-0221 立山町前沢994-8 ☎076-463-5681
	清見 昇	〒932-0045 小矢部市中央町2-23 ☎0766-67-5506
	小竹 裕貴	〒931-8314 富山市粟島町2丁目3-28-5 ☎076-460-3623

題字によせて

「観想の華」の二番に「護国愛理の金字塔 不滅の城の王者なる 時黎明の鐘なれば……」とあります。「黎明」には夜明け、物事の始まりという意があり、富山県支部会も新たに再出発しようという心意気を表しました。

揮毫は齋藤芳攝氏。